



**平木選手は予選 Q2 を 4 番手で通過、示した速さ！
だが、決勝では待たしてもトラブルに見舞われ……**



スーパーGT 第6戦

2018年9月15日～16日 スポーツランド SUGO (宮城県)

晴れ 81周 (43台出走)

ドライバー：坂口夏月／平木湧也

第6戦 予選4番手／決勝22位



茨城トヨペットレーシングから GR 86/BRZ レースに挑む、平木湧也選手は今シーズンから併せてスーパーGTのGT300にも出場することとなった。操るのはTEAM MACHの「マッサ車検 MC86 Y's distraction」。全8戦で争われるシリーズの第6戦が、スポーツランド SUGO を舞台に予選が9月15日(土)に、決勝レースが9月16日(日)に開催された。

前回の富士スピードウェイでのレースでは、湧也選手が予選 Q1 を9番手で突破し、決勝レースではスタートを担当。12番手からの発進だったものの、8番手にまで浮上した。最終的にトラブルに見舞われてしまったが、今季初の入賞も見えつつあり、なおかつ湧也選手の評価は、ますます高まってきた。

今回の舞台、SUGO はアップダウンに富んだテクニカルコースとして知られ、JAF-GT、とりわけマザーシャシーとの相性は抜群と言われている。その一方でウエイトハンデが大きな影響をもたらし、2015年にスーパーGTと改められてから、ポイントリーダーに優勝を許したことが一度もない。特に今年はレースが第4戦から第6戦に移されたこともあり、ランキング上位陣はヘビー級のハンデが響いて苦戦は免れず。まさにビッグチャンスといえた。

土曜日の午前に行われた公式練習は、開始から1時間と経たず雨に見舞われてしまったため、ドライコンディションの序盤は、セットアップに時間を多く当てていたことから1分20秒039をベストに、12番手につけるに留まっていたが、本領は予選で発揮されることとなった。

今回の予選 Q1 は初めて2組に分けられ、それぞれ上位7位までが Q2 進出を許される。セミウェット状態だった、Q1 担当の坂口夏月選手はA組の7番手と、ギリギリでクリアして肝を冷やさせられたものの、ほぼドライコンディションに改められた Q2 に、湧也選手は自信を持って臨んでいた。

気温は23度、路面温度は27度と低めであったことから、ウォームアップを入念に行っていた湧也選手。最後のワンチャンスをしっかり活かして、1分18秒420をマークして4番手につけることに。トップだけが1分17秒台に入れていたが、3番手とはなんとコンマ105秒の差でしかなかった！

「ターゲットは18秒5だったので、それよりちょっと速く走れたんですが、あんなにトップが速いとは！ 4番手という結果には、もちろん満足していますが、ちょっと残念な面もあるんです。今、調べてもらっているんですが、予選マップじゃなかったみたいなんです。スイッチは入れているんですが、システムが機能していなかったようで……。ストレートが伸びず、あとコンマ4秒で2番手でしたからね。でも、しょうがない。レースペースも悪くないと思いますので、明日は表彰台を目指して頑張ります！」と湧也選手。

ドライコンディションに恵まれ、大観衆の見守る中、81周で争われる決勝レースのスタート担当は坂口選手。エンジンパフォーマンスに優れる FIA-GT3 勢に、オープニングラップのうちに相次いでかわされてしまうも、これは想定範囲。やがて展開が落ち着くと、同じ 86MC である「HOPPY 86 MC」に続く、7番手で「マッハ車検 MC86 Y's distraction」は周回を重ねていく。もちろん、当初より選んでいたのはタイヤ無交換作戦。ピットでロスを最小限にすれば、一気にポジションを上げることは可能だったはず。まさに湧也選手の、腕の見せどころになるはずだったのだが.....。

規定周回ミニマムの 23 周が過ぎ、予定どおり坂口選手は次の 24 周目にピットに戻ってくる。そして湧也選手と交代するが、なんとエンジンがかからない！ やむなくピットガレージに戻し、原因のひとつとして考えられるセルモーターが冷えるのを待ち、さらに電源を落として再起動を試みると、エンジンは再び息を吹き返した。が、その間に周回遅れとなり、最後尾へと後退.....。

遅れは大きく、湧也選手は追い上げもままならぬ孤独な戦いを強いられたものの、諦めることなく周回を重ねていく。1分21秒前半の、上位陣とも遜色ないタイムで走り続けていたことが、その何よりも証明だ。67周目、再びピットイン。これは次回に向けて、いったんエンジンを切っても再始動なるかのチェックだった。大丈夫、エンジンは今度はかかった。

残された結果はトップから4周遅れの22位で、それより下にいるのは、いずれもトラブルを抱えた車両ばかり。最善を尽くせたのは間違いない。次回は TEAM MACH のホームコースである、オートポリスが舞台。ここで結果を残して弾みをつけて、湧也選手のホームコースである、最終戦のツインリンクもてぎで締める。今回見せた速さは、そんな期待を抱かせるに十分だった。

平木湧也選手のコメント



いっぱい走りました。でも、代わって出て行こうと思ったら、エンジンかからなくなって.....。それでピットの中に入れて、原因じゃないかと思われるセルを冷やし、全部電源を落としたら、やっとエンジンがかかってくれました。それでだいぶロスしてしまったので、勝負権もなくなり、最後にもう一度（ピットに）入ったのは、またかかるか確認するためでした。もし、何もトラブルがなければ、ペース的にも悪くなかったので、3位まで行けたと思います。僕的には予選はうまくいって、アタックでしっかりタイムを出すことができたので、それは良かったと思います。でも、何かありますね.....。次はチームの地元なので、頑張ります！

